



アジアの医療研究協力を現場への実践するためのシンポジウム開催

「Asia Symposium on Social Implementation through the Asian Research Network under the COVID-19 Pandemic: From Research to Practice」

2022年12月9日

国際協力機構(JICA)ベトナム事務所

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったこの数年間、医療分野での国際協力がこれほど注目を集めたことはありません。しかし、世界に脅威を与える感染症は新型コロナウイルスに限りません。新型コロナウイルス感染症に対して、そして同感染症と共存する中で、各種の国際共同研究はどうあるべきか、そしてそれをどのように社会の実践に繋げていくか、課題はその重要性を増すばかりです。

これら変化する情勢を背景に、12月9日、国立国際医療研究センター主催・AMED(日本医療研究開発機構)協賛で、新型コロナウイルス感染症流行下における HIV、デング、結核を初めアジアにおける各種感染症に関する研究と、その成果の社会実装に関するシンポジウムが東京で開催されました。会議では、アジア地域の保健行政責任者、研究機関代表を招いて、各国での国際共同研究の成果、社会実装に向けた取り組みを共有し、そして研究者同士のネットワークの強化を図りました。

JICA は、AMED と共同で、国際科学共同研究を通じた開発途上国の社会課題を解決する SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)事業を、世界各国で実施しています。本シンポジウムには、現在ベトナムで実施されている SATREPS「ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト」のパートナーである、ベトナム国立熱帯病病院、保健省 HIV/AIDS 予防局から参加者を招聘し、ベトナムの感染症対策の現場で、こういった科学技術研究がどのように実際の社会問題解決に貢献しているかを紹介頂きました。

またこの機会に併せ、ベトナム各地方のパートナー病院から、臨床現場で活躍する医師、看護師、公共衛生専門家へのトレーニングも行い、HIV 治療、検査、特に薬剤耐性ウイルスへの対応や服薬支援について共に学びました。専門的知識、地域を越えた広い視野を得ることで、ベトナムでの HIV/AIDS 治療・予防が更に進むことが期待されます。

JICA は引き続き、新型コロナウイルスを含めた各種感染症対策支援に取り組んでまいります。

以上

お問い合わせ： JICA ベトナム事務所 広報班 関 里緒菜

Tel: (+84-24) 3831 5005 (内線 137) E-mail: Seki-Riona@jica.go.jp